

西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2016年4月27日 Vol. 137 発行者:森田正樹 編集:広報部
〒662-0911 西宮市池田町 11-1 フレンテ西宮 4F 秘書課内
TEL:0798-35-3468 FAX:0798-32-8673 Mail:info@nleg.net

マリーと松谷さんをゲストにお迎えして

平成28年度総会 5月28日(土)午後6時から

5月28日(土)午後6時から、平成28年度のNLeG総会を開催します。
今年の総会の終了後は、フランスからマリー・フィトンさんと松谷武判さんをゲストにお迎えして懇親会兼歓迎会を開催することとなりました。
28年度総会を成功させ、今年も皆様のご活躍でNLeG活動を一層発展させましょう。

5月28日(土) フレンテ4階会議室で

- 28年度総会 午後6時から
- 懇親会(兼マリー来日歓迎会) 午後7時から
 - ・参加費 1,500円
 - ・持ち込み、差し入れ大歓迎

※28年度会費2,000円の納入も受付させていただきます。



出欠は、会員氏名・総会出欠・懇親会出欠を記入の上、5月21日(土)までにFAX(0798-32-8672)又はメールに送信してください。

※ 総会欠席の場合は、「議決権を議長に一任します」とご記入ください。

※ 総会欠席者で会員名簿送付を希望の方は、「会員名簿希望」とご記入ください。



(平成27年の総会と懇親会での楽しそうな様子)

第 19 回アジャン スケッチ旅行会作品展

絵画 21 点、写真 9 点の力作

4 月 12 日から 17 日まで、恒例の作品展が北口ギャラリーで開催され、絵画部門 11 人、写真部門 3 人と賛助出品として松谷武判さんの作品が並びました。6 日間で 430 人以上の人が来場されました。

寂しいのは毎年大作を出品されていた越智強之さんが遺作の出品となってしまったことです。越智さんは長年交流市民の会美術部の部長として作品展を指導されるとともに、西宮市展、イ・ライン会、日洋会、多くのグループ展でも活躍されてきました。やさしい人柄と真摯な作画態度とユーモアでメンバーから愛されておられました。急なご逝去が悔やまれてなりません。

来場者はさまざまな表現に見とれつつ、「あの絵の街角をこっちから描いたのがこの作品だ」と訪れた地を懐かしむ人、まだ見ぬかの地に思いを寄せる人でにぎわいました。

出品者からもまた訪問したいとの声もあがっていました。

また、市と国際交流協会主催のアジャンウィークも同時開催され、「交流展」や「エンジョイ・トーク」など賑わっていました。
(森田正樹)



「ロット・エ・ガロンヌ、アジャンウィーク」報告

パネル展

4 月 11 日から 18 日まで国際交流協会前展示スペースにてパネル展を行いました。内容はロット・エ・ガロンヌ、アジャンの紹介や西宮との交流活動についてです。ガラスケースでは、交流で寄贈されたラグビーボールやか絵画、記念のグラスなども展示致しました。足を止めてご覧になられている方もちらほらおられましたし、パネルの準備をしている時に、一番最近の訪仏の写真はどれですか？とご質問をいただいりもしました。少しでも西宮とロット・エ・ガロンヌ、アジャンの交流の様子を市民の方に見ていただけたのではないかと思います。
(清岡敦子)



フランス語でエンジョイ

4月17日 13:30から15:00まで国際交流協会会議室に於いて「フランス語でエンジョイ」を行いました。

当初の申し込みは10名ほどだったのですが、当日の朝のお天気が不安定だったことも影響したのか6名での開催となりました。講師のケラ・ジョエルさんはコートジボアール出身で日ごろあまり耳にすることのない、コートジボアールの地理や産業、食べ物から衣服など色々なことについて楽しく

お話いただきました。参加者の皆さんは普段知ることの出来ないコートジボアールについて活発に質問などをしながら学んでおられました。人数は少なかったのですが充実した催しになりました。

(清岡敦子)



カランドリエ「トランブルモン・ドゥ・テール」

トランブルモン・ドゥ・テールとは、フランス語で地震のことです。

～今回、九州、熊本県を中心とする大震災に遭われた方々にお見舞い申し上げます。またこの一連の地震で亡くなられたご遺族の方々へ、お悔やみ申し上げます。～

私がフランスで生活していた時に、自分の経験を話すとき、このトランブルモン・ドゥ・テールは、阪神淡路大震災にあったことを伝えるときに使う単語でした。



フランスでは、地震を経験していない人が多く、私自身も被災していない「ツナミ」も含めて、日本の自然災害へ関心あるフランス人は多かったです。

では、フランスで地震が全くないのか、というと…。

実は東部や南部などでは、数年に一度くらいの割合で起こります。

(もちろん、地方によっては、一度も経験することない人々もいるようです。)

東部の大都市ストラスブールには、地震を研究する施設もあるようです。

しかしながら、フランスでの震度はあったとしても、2～3くらいでしょうか。

それでも、地震が起こった次の日には地方ニュースで大特集され、街の人の話題は、「地震で揺れてすごく怖かった～～」

というものです。

私も一度フランスで経験しましたが、

「あれ？どこかで工事？いや、地震かな。でもこれはあまり大したことないな…」

と日本での経験から予想して、あまりに気にせず、そのまま時間を過ごしていました。

ヨーロッパでの地震大国といえば、やはりイタリアで、こちらでも忘れた頃に、大地震と呼んでも良いほどの震度を記録することがあります。

地震と直接の関係ないかもしれませんが、フランスの小学校でも、イタリア、シチリアにある活火山、

エトウナ火山については、しっかり学習します。

時々起こるイタリアの大きな地震ニュースを見ると、日本での地震ニュースと同じくらいゾッとすると、自宅が壊れて被災された方々を思うと悲しくなります。

では、フランスの建物の耐震性はどうか、というところ…。ほとんどその話題は聞いたことはないのですが、100年もの大掛かりな手入れ工事などもなさそうなアパートマンや、石造りの教会や城がゴロゴロしていて、しかも創建当時の姿だったりするので、あまり対策をとられていない気がします。



一方、美しく装飾された古い外壁1枚を残して古い居住部分をそっくり建て替えて、中身の建物丸ごと新築のアパートマンもあつたりします。一見すると、歴史あるアパートマンそのものですが、建物内に入るとすぐに新築物件であることがわかります。

耐震性が気になる日本人は、ヨーロッパでは、こういった物件に住めば少し安心ですね。

この10年くらいで来日する海外からの観光客は年々増えています。日本での地震のニュースを聞くと、滞在する建物を不安に思われる外国人観光客も少なくないでしょう。

日本では新しい建造物はもちろんのこと、特に阪神淡路大震災以降の被災都市での建物は、耐震対策されていることが多いことを、観光客へ積極的に複数の外国語で伝えることも大切なのではないかと感じました。

今後、NLeGとも関係のあるフランスから多くの観光客が来られると思いますが、皆安心して旅ができますよう、早く地震が治まって、復興進むことを切に祈っております。(藤枝知子)

